

## 二〇二四年度入学式 学長式辞

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。御父母、保証人の皆様もお慶びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。本日、経済学部、経営学部、理工学部、文学部、法学部の五つの学部と、経済経営研究科、理工学研究科、文学研究科、法学政治学研究科の四つの研究科をすべて合計しておよそ一九〇〇名の新入生のみなさんを、ここにお迎えできたことは誠に喜ばしい限りです。

新型コロナウイルス感染症の拡大の時期には、みなさんの学業にはさまざまな制約があったことでしょう。そのハンディキャップを乗り越えられて、着実に学業に励まれ、見事に合格をつかみ取られた新入生のみなさんの努力に心から敬意を表し、お祝いの言葉を述べたいと思います。

二十世紀の初頭、当時の画一的な教育に疑問を感じていた中村春二という青年教師が、成蹊園という名前の私塾を開きました。成蹊園から成蹊実務学校に、そして現在の成蹊学園、成蹊大学に至る百年以上の長い道のりにおいて、学ぶ者一人一人の個性を尊重した教育を行いたいという思いは、本学がゼミや研究室での学びを重視し、少人数教育を意図していますように今でも強く受け継がれています。また、この百年以上の歴史のなかでも、一九二四年、武蔵野市吉祥寺の地に学びの場が移ったことは大きな出来事でした。今年はその百周年を迎えることになり、皆さんは記念すべき年の入学者ということになります。吉祥寺ゆかりのイラストレーター、キン・シオタニさんによる移転百周年にちなんだウォールグラフィックがキャンパスのあちらこちらを現在彩っており、みなさんの目を楽しませることと思います。吉祥寺は文化的に大変刺激的な街なのですが、広く武蔵野という土地も魅力をたたえています。国木田独歩という作家が、「武蔵野」という小説のなかで、実に印象的な一節を著しています。これは大学での学びのメタファー、喩えと解してもとても面白いもので、皆さんのご入学を祝してその一節を読みたいと思います。

武蔵野に散歩する人は、道に迷うことを苦にはならない。どの路でも足の向くほうへゆけばかならずそこに見るべく、聞くべく、感ずべき獲物がある。武蔵野の美はただその縦横に通ずる数千条の路を当てもなく歩くことよって始めて獲られる。春、夏、秋、冬、朝、昼、夕、夜、月にも、雪にも、風にも、霧にも、霜にも、雨にも、時雨にも、ただこの路をぶらぶら歩いて思いつきしだいに右し左すれば随処にわれらを満足させるものがある、これが実にまた、武蔵野第一の特色だろうと自分はしみじみ感じている。

大学での学びは決して一直線に行われるものではなく幾度も立ち止まりつつ、ときには遠回りをしつつ行われるものです。その試行錯誤の過程こそが、みなさんに豊かな果実をも

たらずことでしょう。国木田独歩が記したように、決して迷うことを苦になさらないください。みなさんが本学で予期していなかったような多くのことに出会われ、そこから多くとを発見し、たくましく成長された姿で本学の学業を修められますこと心から願っております。我々教職員もみなさんを力の限り支援いたします。これからの月日とともに歩んでいきましよう。

二〇二四年四月三日

成蹊大学長 森 雄一